

高野山大学論叢 第二卷

高野山大学の創立八十周年を記念した論叢第二巻が、このほど公刊された。本書はいわゆる紀要に相当するものではあるが、第一巻いらい数年公刊が中絶していたものである。収載論文は次の通りである。

漢詩文格式論考

加地哲定

慈雲尊者研究序説

岡村圭真

寛信撰東寺長者次第

和多昭夫

農村社会集団の一研究

平田順治

彰考館蔵南都異本平家物語

山内潤三

大日経の身曼荼羅について

酒井紫朗

原始仏教の食と古ウバニシャッドの

宮坂宥勝

食物哲学

Edith Sitwell の詩における Cosmic

宮本光子

Imagery

このうち、本誌会員にとつとりわけ注目されるのは、第一に和多氏による、東寺長者次第の覆刻である。この書は、すでに群書類従・続群書類従、続々群書類従に各一本が収められ、うち続々類従本は全五巻、空海より寛永十一年にわたり、編年体に掲載された詳細なものであるが、それだけに

長書次第の本来の形を離れ、従つて誤伝も多く、とくに平安時代の伝記は、以上三本ともに善本というわけにはいかなかったのがわれわれのなやみであった。此処に覆刻されているのは、高野山宝寿院蔵の鎌倉時代古写本で上下二巻、三十七世長者寛信の撰になるもので、空海より寛信まで、先行する長者次第をもとに諸書、文書、記録を渉獵して誤りを正し、各長者ごとに略伝を書きあつめたもので天養二年完成。寛信の自跋も筆写されている。寛信本は、続々類従本にも引用されていてその存在は知られていた訳ではあるが、ここにはじめて全容に接したわけであり、平安仏教史の貴重な資料となる。

第二には、山内氏による水戸彰考館蔵の、いわゆる南都異本の平家物語（巻十のみ）の覆刻である。近時、平家物語研究は、延慶本の再評価をはじめ、源平闘諍録、四部合戦本など続々覆刻されて古本の研究が活潑となり、歴史学からも平家物語があらためて見直されつつあるが、南都異本は長門本との近似性をもちつつも延慶本や源平

盛衰記との共通部分も多く、ユニークな一

本をなすもので、巻十全五六葉の真字本。本文の覆刻のほか詳細な解題と、本文前部についての、諸本との異同との対比が行なわれている。また一六葉表裏の写真掲載。この一本の公刊によって、平家古本研究の新資料が附加されたわけであり、平家物語研究はさらに新たな論義をよぶことである。

論考についての紹介は割愛させていただが、本論叢は今後毎年一卷刊行を目標とし、未刊資料の覆刻も加えてゆくとのこと。高野山はいうまでもなく未刊資料の宝庫をなしており、その公刊の、学界への貢献ははかり知れないものがある。本論叢がいよいよさかんに研学の成果を競われんことを祈るとともに、未刊資料公刊の一つの場としても活用されることを期待したい。

(B5判三五六頁 昭和四一年一〇月 高野山
山大学刊 頒価一、三〇〇円、送料一〇〇円
申込先 高野山大学宛) (熱田 公)